

(様式第9)

金大病総第111号  
平成21年9月30日

厚生労働大臣

殿

金沢大学附属病  
富田 勝

金沢大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	41人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	353人	120人	433.6人	看護業務補助	46人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	20人	3人	22.4人	理学療法士	9人	臨床検査技師	48人
薬剤師	42人	3人	44.3人	作業療法士	6人	衛生検査技師	4人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	9人	その他	0人
助産師	21人	0人	21.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	676人	33人	697.9人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	4人	1人	4.7人	栄養士	0人	その他の技術員	8人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	1人	事務職員	171人
管理栄養士	8人	0人	8.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	14人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	711人	6人	717人
1日当たり平均外来患者数	1,559人	6人	1,625人
1日当たり平均調剤数	1,165剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	13人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着、瞼球癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	12人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	14人
31P—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、膵動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがいないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテナーメドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類 I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
光トポグラフィ検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。))及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。))が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	4人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	65人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	29人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	62人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	21人
・多発性硬化症	56人	・ウェゲナー肉芽腫症	7人
・重症筋無力症	83人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	24人
・全身性エリテマトーデス	256人	・多系統萎縮症	31人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人
・再生不良性貧血	86人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	97人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・筋萎縮性側索硬化症	37人	・原発性胆汁性肝硬変	100人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	428人	・重症急性膵炎	10人
・特発性血小板減少性紫斑病	65人	・特発性大腿骨頭壊死症	50人
・結節性動脈周囲炎	34人	・混合性結合組織病	31人
・潰瘍性大腸炎	146人	・原発性免疫不全症候群	13人
・大動脈炎症候群	26人	・特発性間質性肺炎	6人
・ピュルガー病	21人	・網膜色素変性症	19人
・天疱瘡	16人	・プリオン病	7人
・脊髄小脳変性症	44人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	111人	・神経線維腫症	13人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	12人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	125人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	13人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	7人
・後縦靭帯骨化症	86人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	8人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週2回 月8回程度		
剖検の状況	剖検症例数	62例	剖検率 19.4%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又 委	
ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発	金子 周一	消化器内科	10,989	補 委	厚生労働省
進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究	金子 周一	消化器内科	500	補 委	厚生労働省
ヒト肝細胞キメラマウスを用いた治療抵抗性の肝炎に関する研究	金子 周一	消化器内科	3,000	補 委	厚生労働省
過栄養状態における肝臓機能の破綻と生活習慣病の研究	金子 周一	消化器内科	10,400	補 委	日本学術振興会
B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法の開発に関する研究	中本 安成	消化器内科	3,000	補 委	厚生労働省
薬剤耐性肝炎ウイルス感染の病態解明と対策に関する研究	中本 安成	消化器内科	2,000	補 委	厚生労働省
肝発生分化メカニズムに基づいた肝癌幹細胞特異的治療法の開発	山下 太郎	消化器内科	1,800	補 委	文部科学省
元気高齢者に園芸療法を適用した包括的地域ケアモデルの構築と場の創造	金子 周一	消化器内科	50	補 委	日本学術振興会
C型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム解析を用いた治療標的分子の網羅的検索系とヒト肝細胞キメラマウスHCV感染モデルを用いた実証系の開発に関する研究	金子 周一(分担)	消化器内科	3,000	補 委	厚生労働省
肝細胞癌治療後の再発制御を目的とした癌免疫療法の開発	水腰 英四郎	消化器内科	1,500	補 委	日本学術振興会
子宮頸部発癌過程での低酸素応答異常とHPV癌遺伝子によるHIF1活性化の分子機構	中村 充宏	消化器内科	1,400	補 委	文部科学省
肝臓の炎症性発がん初期段階を構築するoncomiR分子の同定と治療応用	中本 安成	消化器内科	3,150	補 委	日本学術振興会
テーラーメイド治療を目指した肝炎ウイルスデータベース構築に関する研究	本多 政夫(分担)	消化器内科	1,000	補 委	厚生労働省
糖尿病腎症の発症進展における血小板機能の役割に関する研究	窪田 美幸	内分泌・代謝内科	500	補 委	学長戦略経費
シオノギ創薬イノベーションコンペ採択「過栄養状態の肝臓から分泌される新規インスリン抵抗性惹起・血管新生抑制因子の機能解析」	篁 俊成	内分泌・代謝内科	1,000	補 委	シオノギ(分担)
インスリン抵抗性と血管合併症を形成する肝臓由来新規ホルモンの機能解析	篁 俊成	内分泌・代謝内科	1,100	補 委	日本学術振興会
ヒトのクリオグロブリン血症性糸球体腎炎モデルマウスの作成	伊藤 清亮	リウマチ・膠原病内科	1,600	補 委	文部科学省
血液サンプルを用いた、難治性固形癌のがん薬物療法の効果予測因子の臨床的有効性の検討	笠原 寿郎	呼吸器内科	2,000	補 委	厚生労働省
難治性慢性咳嗽の克服に向けて:咳嗽発生メカニズムの機序解明と治療法の開発	片山 伸幸	呼吸器内科	100	補 委	日本学術振興会
難治性慢性咳嗽の克服に向けて:咳嗽発生メカニズムの機序解明と治療法の開発	藤村 政樹	呼吸器内科	1,000	補 委	日本学術振興会
筋特異的ユビキチン連結酵素MAFbxの不全心病態形成における役割の検討	薄井 荘一郎	循環器内科	1,340	補 委	日本学術振興会



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
致死性遺伝性不整脈疾患の遺伝子研究と臨床応用	山岸 正和	循環器内科	2,000	補 委	厚生労働省
突発性心筋症に関する調査研究	山岸 正和	循環器内科	1,100	補 委	厚生労働省
難治性血管炎に関する調査研究	和田 隆志	腎臓内科	1,000	補 委	厚生労働省
新規内因性エリスロポエチン活性阻害物質の同定とその臨床的意義	原 章規	腎臓内科	500	補 委	日本腎臓財団
血管内超音波イメージングおよび多施設臨床試験解析、循環器分野における最新治療法の研究・開発	坂田 憲治	循環器内科	1,500	補 委	住友生命社会福祉事業 団 海外医学研究助成金
血管内超音波イメージングおよび多施設臨床試験解析、循環器分野における最新治療法の研究・開発	坂田 憲治	循環器内科	4,500	補 委	Stanford -St. Jude Medical Scholarship Program 2007
ステント摘出デバイスの開発	山岸 正和	循環器内科	600	補 委	日本学術振興会
厚生労働省難治性疾患克服研究事業特発性心筋症に関する調査研究<北風班>	山岸 正和	循環器内科	1,100	補 委	厚生労働省
心肥大に伴う心筋不全の発症・増悪に関わる要因に関する研究(他施設共同研究)	山岸 正和	循環器内科	17,270	補 委	平成20年度 循環器病研究 委託費事業
血管内皮前駆細胞選択的捕捉VEGF固定化ステントの開発に関する研究	山岸 正和	循環器内科	1,800	補 委	日本学術振興会
Impact of elevated plasma matrix metalloproteinase-2 on prognosis in hypertrophic cardiomyopathy	舛田 英一	循環器内科	100	補 委	平成20年度 医科学応用研究財団に よる国際交流助成
糖尿病性臓器合併症の進展にはたす骨髄由来間葉系細胞の意義	和田 隆志	腎臓内科	3,000	補 委	財団法人 武田科学振興財団
心腎連関機序:新規骨髄由来細胞の関与とその臨床評価システムの構築	和田 隆志	腎臓内科	1,400	補 委	日本学術振興会
難治性血管炎に関する調査研究	和田 隆志、他	腎臓内科	1,000	補 委	厚生労働省
アレルツマブを用いたHLA不一致同種造血幹細胞移植療法の医師主導治験および造血幹細胞移植領域における医師主導治験発展のための研究	中尾 眞二	血液内科	500	補 委	厚生労働省
再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	中尾 眞二	血液内科	1,000	補 委	厚生労働省
成人難治性造血器腫瘍に対する非血縁者間の同種造血幹細胞移植法の確立に関する研究	中尾 眞二	血液内科	1,000	補 委	厚生労働省
多施設共同医師主導治験による新規医薬品の効果に関する臨床的エビデンス創出と新移植技術の開発研究	中尾 眞二	血液内科	5,000	補 委	厚生労働省
同種造血幹細胞移植成績の一元化登録と国際間の共有およびドナーとレシピエントのQOLを視野に入れた成績の向上に関する研究	中尾 眞二	血液内科	500	補 委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	中尾 眞二	血液内科	2,000	補 委	厚生労働省
抗リン脂質抗体症候群におけるB細胞をターゲットとした新規治療法の開発	山崎 雅英	血液内科	1,500	補 委	日本学術振興会
再生不良性貧血における免疫抑制療法の効果予測法の確立	山崎 宏人	血液内科	1,000	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
新規抗リン脂質抗体「フォスファチジルセリン依存性IgM抗プロトロンビン抗体」の臨床的意義	山崎 雅英	血液内科	200	(補 委)	厚生労働省
自己抗体とCLIP置換型i鎖ライブラリーを利用した再生不良性貧血自己抗原の同定	中尾 眞二	血液内科	5,800	(補 委)	日本学術振興会
自己抗体による免疫担当細胞からのサイトカイン分泌増強を介した骨髄不全病態の解析	中尾 眞二	血液内科	1,400	(補 委)	日本学術振興会
ナラティブアプローチによるうつ病者の自殺予防に関する研究	小泉 順二	総合診療内科	50	(補 委)	日本学術振興会
動脈硬化予防のための糖尿病・高脂血症の患者効用値を考慮した治療判断における研究	小泉 順二	総合診療内科	300	(補 委)	日本学術振興会
わが国における医師のプロフェッショナリズム探索と推進・教育に関する研究事業	野村 英樹	総合診療内科	450	(補 委)	日本学術振興会
診療ガイドラインの新たな可能性と課題:患者・一般国民との情報共有と医療者の生涯学習	野村 英樹	総合診療内科	300	(補 委)	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	山田 正仁	神経内科	6,200	(補 委)	厚生労働省
アルツハイマー病発症と進展の客観的評価法確立のための多施設縦断臨床研究:J-ADNIコアスタディ	山田 正仁	神経内科	1,000	(補 委)	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	山田 正仁	神経内科	2,500	(補 委)	厚生労働省
石川ハイテク・センシング・クラスター構想:早期地方診断支援技術の開発・予防型社会システムの構築をめざして	山田 正仁	神経内科	76	(補 委)	文部科学省
脳アミロイドアンギオパチー関連脳出血のリスク評価法および予防法の開発	山田 正仁	神経内科	1,850	(補 委)	日本学術振興会
脳アミロイドアンギオパチー関連脳出血のリスク評価法および予防法の開発	吉田 光宏	神経内科	500	(補 委)	日本学術振興会
広汎性発達障害の診断・治療・経過観察総合システムの開発	菊知 充	神経科精神科	50,000	(補 委)	ほくろく健康 創造クラスター (文部科学省)
自閉症スペクトラムの病態におけるGABA系の関連	菊知 充	神経科精神科	2,200	(補 委)	日本学術振興会
統合失調症死後脳基底核におけるGABA系神経伝達経路の検討	戸田 重誠	神経科精神科	500	(補 委)	アステラス製薬 株式会社
NIRS (Near-infrared spectroscopy) を用いた双極性障害の診断	丸毛 健	神経科精神科	500	(補 委)	公益信託松原三郎記念 精神医学育成基金
社会認識に関わる分子の神経化学的解析による自閉症の解明と治療	菊知 充	神経科精神科	100	(補 委)	日本学術振興会
「子どものこころ」の発達に及ぼす食育のあり方に関するコホート研究	三邊 義雄	神経科精神科	225	(補 委)	日本学術振興会
精神医療の質的実態把握と最適化に関する総合研究	三邊 義雄	神経科精神科	3,200	(補 委)	厚生労働省
自閉症関連障害のオキシトシン関連遺伝子cd38の変異とオキシトシン補充療法	三邊 義雄	神経科精神科	5,000	(補 委)	日本学術振興会
社会認識に関わる分子の神経化学的解析による自閉症の解明と治療	三邊 義雄	神経科精神科	100	(補 委)	日本学術振興会
原発性免疫不全症候群に関する調査研究	谷内江 昭宏	小児科	1,500	(補 委)	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
複合免疫不全症の多様な臨床像とその背景となる分子生物学的基盤に関する研究	谷内江 昭宏	小児科	1,600	補 委	日本学術振興会
原発性免疫不全症における復帰変異による体細胞モザイクの意義と分子生物学的基盤	和田 泰三	小児科	1,500	補 委	日本学術振興会
思春期強迫性障害における 双極性障害の併存 (精神・神経疾患研究委託費)	棟居 俊夫	子どものこころの診療科	800	補 委	厚生労働省
社会認識に関わる分子の神経化学的解析による自閉症の解明と治療	棟居 俊夫	子どものこころの診療科	1,000	補 委	日本学術振興会
肝癌早期発見を目的とした分子マーカーおよび画像診断システムの開発	松井 修	放射線科	2,500	補 委	厚生労働省
局所療法適応外の肝細胞がんに対する経動脈的治療法標準化(手技を含む)の研究	松井 修	放射線科	1,000	補 委	厚生労働省
難治がんの総合的な対策に関する研究	松井 修	放射線科	1,000	補 委	厚生労働省
有痛性悪性骨腫瘍に対する経皮的骨形成術についての第Ⅱ相臨床試験に関する研究	松井 修	放射線科	10,000	補 委	厚生労働省
肝動脈塞栓物質の動態解析: 静脈叢を介した門脈血流域の塞栓効果に関するインビボ解析	松井 修	放射線科	200	補 委	日本学術振興会
膵管癌のダイナミックCTによる濃染とVEGFの発現と病理組織学的特徴との相関	蒲田 敏文	放射線科	1,100	補 委	日本学術振興会
光造形血管モデルを用いた大動脈ステントグラフト治療前シミュレーションに関する研究	眞田 順一郎	放射線科	1,000	補 委	日本学術振興会
強皮症モデルマウスの皮膚硬化に対するCD40/CD40L相互作用の解析	小村 一浩	皮膚科	1,500	補 委	文部科学省
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	藤本 学	皮膚科	1,800	補 委	厚生労働省
皮膚筋炎/多発性筋炎における抗155/140kDa蛋白抗体の抗原特定	加治 賢三	皮膚科	1,100	補 委	文部科学省
免疫性皮膚疾患における制御性B細胞の役割とその分子メカニズム	藤本 学	皮膚科	1,300	補 委	日本学術振興会
アルツハイマー病に対するワイン関連ポリフェノールの治療効果の検討	濱口 毅	皮膚科	1,350	補 委	日本学術振興会
CD20抗体によるB細胞除去療法が免疫応答に及ぼす影響についての検討	濱口 儒人	皮膚科	2,400	補 委	文部科学省
I型糖尿病モデルマウスにおける抗CD20抗体療法の有効性に関する検討	濱口 儒人	皮膚科	1,000	補 委	かなえ医薬振興財団
抗CD20抗体療法が抗体産生システムに及ぼす影響について	濱口 儒人	皮膚科	500	補 委	日本皮膚科学会
全身性強皮症における $\gamma$ $\delta$ T細胞の役割	濱口 儒人	皮膚科	500	補 委	日本リディアオリリー協会
血管内皮前駆細胞の流血下捕捉による内皮化小口径人工血管:動物移植実験による検証	大竹 裕志	心臓血管外科	2,600	補 委	日本学術振興会
MKステントグラフト治療の安全性に関する基礎的研究	大竹 裕志	心臓血管外科	476	補 委	㈱カテックス
メドウェイ注/25%、5%使用成績調査	大竹 裕志	心臓血管外科	200	補 委	田辺三菱製薬㈱

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
皮膚病変を有する重症下肢虚血患者における切 断若しくは死亡(全ての死因)に対する XRP0038/NV1FGF4mg2週間隔4回投与の有効 性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、 プラセボ対照、並行群間比較試験	大竹 裕志	心臓血管外科	738	補 委	サノフィ・アベンティス(株)
脈波解析による動脈瘤診断手法の開発	大竹 裕志	心臓血管外科	1,000	補 委	日本学術振興会
近赤外分光法とスパイシステムを利用した神経電 気刺激心停止法の基礎的研究	富田 重之	心臓血管外科	750	補 委	日本学術振興会
肺癌に対するシミュレーション下ナビゲーション低 侵襲手術に関する基礎的・総合的研究	渡邊 剛	心臓血管外科	200	補 委	日本学術振興会
近赤外分光法とスパイシステムを利用した神経電 気刺激心停止法の基礎的研究	渡邊 剛	心臓血管外科	50	補 委	日本学術振興会
血管内皮前駆細胞の流血下捕捉による内皮化小 口径人工血管:動物移植実験による検証	渡邊 剛	心臓血管外科	1,000	補 委	日本学術振興会
肺癌における術中リンパ節微小転移検出法の確 立に向けた総合的研究	渡邊 剛	心臓血管外科	300	補 委	日本学術振興会
微弱電磁場冷却装置を使用した零度以下(過冷 却)長期心臓保存の実験的研究	渡邊 剛	心臓血管外科	2,400	補 委	日本学術振興会
肺癌における術中リンパ節微小転移検出法の確 立に向けた総合的研究	小田 誠	呼吸器外科	300	補 委	日本学術振興会
肺癌における術中リンパ節微小転移検出法の確 立に向けた総合的研究	松本 勲	呼吸器外科	300	補 委	日本学術振興会
タルセバR錠 25mg、100mg、150mg特定使用成績 調査(全例調査)	小田 誠	呼吸器外科	1,620	補 委	中外製薬(株)
ユーエティ特定使用成績調査 (非小細胞肺癌術後補助科学療法における服薬 状況調査)	小田 誠	呼吸器外科	600	補 委	大鵬薬品工業(株)
肺切除後細径ポリウレタン胸腔ドレーンの安全性 評価の検討	小田 誠	呼吸器外科	384	補 委	日本シャーウッド(株)
肺癌に対するシミュレーション下ナビゲーション低 侵襲手術に関する基礎的・総合的研究	小田 誠	呼吸器外科	500	補 委	日本学術振興会
肺癌に対するシミュレーション下ナビゲーション低 侵襲手術に関する基礎的・総合的研究	松本 勲	呼吸器外科	100	補 委	日本学術振興会
胃癌所属リンパ節転移とリンパ節内樹状細胞活性 化の検討	二宮 致	胃腸外科	1,400	補 委	日本学術振興会
十二指腸液逆流による食道腺癌に対するウルソデ オキシコール酸とカモスタットの効果	藤村 隆	胃腸外科	1,600	補 委	日本学術振興会
胃癌腹膜播種におけるTGFβおよびアンギオテ ンシン系を介した分子標的治療の開発	伏田 幸夫	胃腸外科	1,100	補 委	日本学術振興会
肝細胞癌の Mesenchymal Transition 機序 の解明	高村 博之	肝胆膵・移植外科	1,900	補 委	日本学術振興会
形状記憶超弾性合金を用いた低侵襲僧房弁輪形 成術の開発	石川 紀彦	内分泌・総合外科	1,000	補 委	日本学術振興会
アービタックス注射液100mg 使用成績調査	大村 健二	内分泌・総合外科	60	補 委	メルクセローノ(株)
プロテオミクスによる大腸癌に対する分子標的治 療のテーラーメイド化	大村 健二	内分泌・総合外科	500	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又 補 委	
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	武田 仁勇	内分泌・総合外科	700	(補) 委	厚生労働省
手術支援ロボットを使用した手術創のない内視鏡下手術に関する基礎的研究	平能 康充	内分泌・総合外科	1,800	(補) 委	文部科学省
生体内における化学療法・放射線療法による形態学的癌細胞死のリアルタイム画像検証	白井 寿治	整形外科	1,300	(補) 委	日本学術振興会
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	土屋 弘行	整形外科	1,050	(補) 委	厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対するカフェイン併用化学療法の臨床使用確認試験	土屋 弘行	整形外科	10,000	(補) 委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	富田 勝郎	整形外科	1,000	(補) 委	厚生労働省
アダムキュービッツ動脈高位を含む分節動脈結紮による脊髄血流および機能に関する研究	富田 勝郎	整形外科	1,500	(補) 委	日本学術振興会
確率共振現象を利用した骨形成能を有する新しい創外固定器の開発	松原 秀憲	整形外科	1,340	(補) 委	日本学術振興会
骨軟部悪性腫瘍の生体内蛍光イメージングー原発巣から転移, 治療まで	土屋 弘行	整形外科	9,100	(補) 委	日本学術振興会
ゲノム病としての男性不妊症の研究ー内在性レトロウイルスエレメントを中心としてー	金谷 次郎	泌尿器科	100	(補) 委	日本学術振興会
ゲノム病としての前立腺がんー内因性レトロウイルスとアンドロゲン調節領域ー	小中 弘之	泌尿器科	100	(補) 委	日本学術振興会
ナノバイオテクノロジーを応用した中高年男性の健康度診断チップシステムの開発	小中 弘之	泌尿器科	100	(補) 委	日本学術振興会
再燃前立腺癌におけるエストロゲン受容体を介したシグナル伝達機構の包括的解明	小中 弘之	泌尿器科	2,000	(補) 委	日本学術振興会
精細管内微小環境モジュレーションによる精子形成細胞増殖能の検討	前田 雄司	泌尿器科	900	(補) 委	文部科学省
腎細胞癌及び前立腺癌に対するノスカピンの効果に関する基礎的研究	宮城 徹	泌尿器科	1,000	(補) 委	文部科学省
ゲノム病としての前立腺がんー内因性レトロウイルスとアンドロゲン調節領域ー	溝上 敦	泌尿器科	100	(補) 委	日本学術振興会
再燃前立腺癌におけるエストロゲン受容体を介したシグナル伝達機構の包括的解明	溝上 敦	泌尿器科	100	(補) 委	日本学術振興会
前立腺癌再燃の分子機序解明とその治療戦略構築のための基礎的研究	溝上 敦	泌尿器科	1,000	(補) 委	日本学術振興会
ゲノム病としての前立腺がんー内因性レトロウイルスとアンドロゲン調節領域ー	溝上 敦	泌尿器科	1,700	(補) 委	日本学術振興会
ゲノム病としての男性不妊症の研究ー内在性レトロウイルスエレメントを中心としてー	溝上 敦	泌尿器科	5,700	(補) 委	日本学術振興会
高齢者の性ホルモン低下に伴う各種合併症に対する臨床研究	並木 幹夫	泌尿器科	11,380	(補) 委	厚生労働省
前立腺がんのリスク評価と化学予防	並木 幹夫	泌尿器科	800	(補) 委	文部科学省
ナノバイオテクノロジーを応用した中高年男性の健康度診断チップシステムの開発	並木 幹夫	泌尿器科	1,100	(補) 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
前立腺癌再燃の分子機序解明とその治療戦略構築のための基礎的研究	並木 幹夫	泌尿器科	7,000	補 委	日本学術振興会
極早期緑内障の網膜神経線維欠損の構造的および機能的解析による病態解明	大久保 真司	眼科	2,300	補 委	日本学術振興会
ナノテク・先端部材実用化研究開発 ウサギ緑内障モデルによるハニカム構造膜の評価	奥田 徹彦	眼科	3,150	補 委	独立行政法人 新エネルギー・産業 技術総合開発機構 共同研究機関 帝人株式会社
ヒト角膜における新しい構造物(K-structure)の発見と臨床的意義の探求	小林 顕	眼科	600	補 委	日本学術振興会
緑内障治療薬の反応性と標的タンパクの遺伝子多型との関連	桜井 真由美	眼科	900	補 委	日本学術振興会
時計遺伝子と眼圧の中樞性制御機構の解明	杉山 和久	眼科	900	補 委	日本学術振興会
超高解像度光干渉断層計による緑内障関連動物モデルの視神経傷害の生体内定量的評価	東出 朋巳	眼科	1,500	補 委	日本学術振興会
脳磁図、近赤外線分光法を用いたニオイ刺激時の脳活動の計測	志賀 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	250	補 委	日本学術振興会
進行頭頸部癌に対する漢方治療の有用性評価	古川 俣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000	補 委	厚生労働省
抗癌剤によるEBウイルス複製サイクル誘導を利用したあらたな上咽頭癌治療の開発	室野 茂行	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100	補 委	日本学術振興会
EBウイルス活性化による遺伝子発現変化と上咽頭組織がん化に関する研究	吉崎 智一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	4,100	補 委	日本学術振興会
雌雄モデル動物における、内耳の変化と聴覚中枢の発達について	伊藤 真人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900	補 委	日本学術振興会
MDM2プロモーター遺伝子多型の上咽頭がんに対する関与	近藤 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,800	補 委	文部科学省
上咽頭がんをはじめとするEBV関連腫瘍におけるSiah1の分子生物学的解析	古川 彻	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5,900	補 委	日本学術振興会
脳磁図、近赤外線分光法を用いたニオイ刺激時の脳活動の計測	三輪 高喜	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,250	補 委	日本学術振興会
上咽頭がんをはじめとするEBV関連腫瘍におけるSiah1の分子生物学的解析	脇坂 尚宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000	補 委	日本学術振興会
固形がんにおけるがん性幹細胞の役割の究明とがん性幹細胞を標的とした治療法開発に関する研究	京 哲	産科婦人科	1,000	補 委	厚生労働省
マイクロRNAによるテロメラーゼ制御機構の解明と子宮頸癌治療への応用	京 哲	産科婦人科	300	補 委	日本学術振興会
再燃前立腺癌におけるエストロゲン受容体を介したシグナル伝達機構の包括的解明	京 哲	産科婦人科	100	補 委	日本学術振興会
前立腺癌再燃の分子機序解明とその治療戦略構築のための基礎的研究	京 哲	産科婦人科	300	補 委	日本学術振興会
不死化子宮内膜細胞を用いたプロゲステロン・ジェノゲストの薬理作用の検討	京 哲	産科婦人科	1,653	補 委	持田製薬株式会社
子宮内膜癌化モデルを駆使した内膜癌化機構の解明と新たな分子標的の探索	京 哲	産科婦人科	4,300	補 委	日本学術振興会
腫瘍特異的増殖ウイルスを用いた婦人科癌細胞の生体内イメージングシステムの構築	京 哲	産科婦人科	900	補 委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
マイクロRNAによるテロメラーゼ制御機構の解明と子宮頸癌治療への応用	高倉 正博	産科婦人科	1,300	(補 委)	日本学術振興会
子宮内膜癌におけるエストロゲンおよびその代謝産物によるゲノム異常誘発の実験的検証	水本 泰成	産科婦人科	1,100	(補 委)	文部科学省
子宮内膜癌モデルを駆使した内膜癌化機構の解明と新たな分子標的の探索	水本 泰成	産科婦人科	2,500	(補 委)	日本学術振興会
運動誘発電位に含まれる高周波振動の脊髄虚血モニタリングへの応用に関する研究	坪川 恒久	麻酔科蘇生科	200	(補 委)	日本学術振興会
脊髄の虚血再灌流障害に対するポストコンディショニングの効果	坪川 恒久	麻酔科蘇生科	700	(補 委)	日本学術振興会
運動誘発電位に含まれる高周波振動の脊髄虚血モニタリングへの応用に関する研究	山本 健	麻酔科蘇生科	300	(補 委)	日本学術振興会
小児悪性脳腫瘍における分子標的治療を目的としたPI3Kシグナル伝達経路異常の探索	喜多 大輔	脳神経外科	1,400	(補 委)	文部科学省
Eph/ephrinバイオロジーと神経膠腫浸潤	中田 光俊	脳神経外科	900	(補 委)	文部科学省
「5-ALA内服による悪性脳腫瘍の術前診断と治療への応用」	中田 光俊	脳神経外科	2,000	(補 委)	臨床薬理研究振興財団 研究奨励金
「悪性脳腫瘍内在幹細胞の浸潤関連遺伝子解析」	中田 光俊	脳神経外科	1,000	(補 委)	安田記念医学財団 若手協研究助成
悪性グリオーマにおけるアクアポリンの機能解明とその抑制による新たな治療戦略	林 康彦	脳神経外科	1,100	(補 委)	日本学術振興会
共焦点顕微鏡プローブと摩擦検出微細鉗子を用いた脳腫瘍の術中診断・摘出システム	林 裕	脳神経外科	500	(補 委)	日本学術振興会
神経膠芽腫腫瘍幹細胞における遺伝子異常の時間的・空間的解析	林 裕	脳神経外科	1,500	(補 委)	日本学術振興会
膜蛋白のプロテオーム解析による神経膠芽腫浸潤関連分子の同定と機能解析	濱田 潤一郎	脳神経外科	1,000	(補 委)	日本学術振興会
悪性グリオーマにおけるアクアポリンの機能解明とその抑制による新たな治療戦略	濱田 潤一郎	脳神経外科	200	(補 委)	日本学術振興会
共焦点顕微鏡プローブと摩擦検出微細鉗子を用いた脳腫瘍の術中診断・摘出システム	濱田 潤一郎	脳神経外科	300	(補 委)	日本学術振興会
「悪性脳腫瘍に対するテーラーメイド分子標的療法確立」	濱田 潤一郎	脳神経外科	1,000	(補 委)	北國がん研究振興 財団助成
イットリウム90標識抗体治療におけるリンパ球の放射性組織障害に関する検討	絹谷 清剛	核医学診療科	10	(補 委)	日本学術振興会
シグナル伝達を指標にした分子イメージングによる癌分子標的薬剤治療効果予測法の開発	絹谷 清剛	核医学診療科	100	(補 委)	日本学術振興会
シグマレセプター標的包括的癌治療法の確立を目指した新規放射性薬剤の開発と評価	絹谷 清剛	核医学診療科	150	(補 委)	日本学術振興会
腫瘍血管新生の可視化を可能にする分子イメージング剤の開発	絹谷 清剛	核医学診療科	100	(補 委)	日本学術振興会
悪性神経内分泌腫瘍に対する血管新生阻害下内用療法:基礎研究から臨床応用へ	絹谷 清剛	核医学診療科	2,000	(補 委)	日本学術振興会
虚血心筋障害、リモデリングにおける心筋間質の病態変化とその画像化に関する研究	瀧 淳一	核医学診療科	1,300	(補 委)	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助 元又	
日本人データベースによる心筋血流および心機能標準の作成と共有化	中嶋 憲一	核医学診療科	600	(補) 委	日本学術振興会
顎関節応力解析を用いた手術シミュレーションの臨床応用	上木 耕一郎	歯科口腔外科	600	(補) 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌に対するAMPK活性化薬剤の増殖・浸潤・転移抑制効果の検討	加藤 広祿	歯科口腔外科	1,500	(補) 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌の浸潤・転移における腫瘍間質の役割	川尻 秀一	歯科口腔外科	900	(補) 委	日本学術振興会
抗癌剤および血管新生阻害剤による口腔扁平上皮癌の浸潤・転移抑制効果	川尻 秀一	歯科口腔外科	1,800	(補) 委	日本学術振興会
リアルタイムPCRによる口腔外科感染症の細菌学的検査・解析法の確立	栗山 智有	歯科口腔外科	1,200	(補) 委	文部科学省
顎骨形成術における骨および神経組織変化に関する実験的研究	中川 清昌	歯科口腔外科	2,800	(補) 委	日本学術振興会
顎矯正手術施行後の上下唇領域知覚麻痺の検討	羽柴 由香里	歯科口腔外科	1,300	(補) 委	日本学術振興会
顎骨における組織誘導再生療法に関する実験的研究	丸川 浩平	歯科口腔外科	900	(補) 委	文部科学省
口腔扁平上皮癌の浸潤・転移における腫瘍間質の役割	山本 悦秀	歯科口腔外科	500	(補) 委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌における白金製剤感受性と浸潤能との関連	吉澤 邦夫	歯科口腔外科	1,350	(補) 委	日本学術振興会
CXCR4/CXCL12とHB-EGFを標的とした胃癌標的治療法の開発	安本 和生	がん高度先進治療センター	1,500	(補) 委	日本学術振興会
E7050による肺癌のEGFR-TKI耐性克服	矢野 聖二	がん高度先進治療センター	1,000	(補) 委	エーザイ(株)創薬第二研究所
肺癌の要因と病態に関する研究(特定領域研究)	矢野 聖二	がん高度先進治療センター	1,300	(補) 委	厚生労働省
肺癌の分子標的治療薬耐性克服に関する研究	矢野 聖二	がん高度先進治療センター	2,000	(補) 委	(財)三谷研究開発支援団
肺癌転移の臓器微小環境特性から見た分子標的治療法の開発	矢野 聖二	がん高度先進治療センター	3,000	(補) 委	徳島大学
肺癌患者の診断マーカーに関する探索的研究	矢野 聖二	がん高度先進治療センター	500	(補) 委	大鵬薬品工業(株)
ウェーブレット変換を応用した臨床検査精度管理法の研究	大江 宏康	検査部	300	(補) 委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群におけるLA検査法の評価と臨床所見との関連	表 美香	検査部	540	(補) 委	日本学術振興会
癌浸潤リンパ球と末梢血液細胞の包括的遺伝子発現解析による癌免疫動態の解明	酒井 佳夫	検査部	1,100	(補) 委	日本学術振興会
XE-2100における破砕赤血球の評価	柴山 正美	検査部	520	(補) 委	日本学術振興会
体細胞遺伝子変異に基づく、急性骨髄性白血病の予後細分類の有用性に関する研究	竹本 賢一	検査部	570	(補) 委	日本学術振興会
分子遺伝学的手法による心房細動発症機構の解明と心房細動アップストリーム治療の評価	林 研至	検査部	1,100	(補) 委	文部科学省



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又	
樹状細胞免疫療法における細胞導入法に関する実験的研究:生体顕微鏡による動態解析	香田 渉	放射線部	1,300	補 委	文部科学省
肝動脈塞栓物質の動態解析:静脈叢を介した門脈血流域の塞栓効果に関するインビボ解析	南 哲弥	放射線部	1,300	補 委	日本学術振興会
デコンディション症例における体力・体組成・栄養状態の変化と運動療法の意義	八幡 徹太郎	リハビリテーション部	500	補 委	日本学術振興会
治療関連合併症を減少させて同種造血幹細胞移植後の生存率の向上を目指す標準的治療法の開発研究	高見 昭良	輸血部	1,000	補 委	厚生労働省
血液がんに対する同種造血幹細胞移植治療成績向上を目的としたFcガンマレセプターIIIa遺伝子多型解析	高見 昭良	輸血部	500	補 委	公益信託 日本白血病研究基金
3次救急を対象とした救急医療情報伝送システムの高度化と最適運用方策に関する研究	稲葉 英夫	救急部・集中治療部	300	補 委	日本学術振興会
3次救急を対象とした救急医療情報伝送システムの高度化と最適運用方策に関する研究	後藤 由和	救急部	300	補 委	日本学術振興会
臍帯血移植後の移植片対白血病効果誘導を目的とした腫瘍関連抗原ワクチン療法の開発	近藤 恭夫	高密度無菌治療部	1,600	補 委	日本学術振興会
播種性血管内凝固における炎症と凝固のクロストークと血管作動性物質の意義	朝倉 英策	高密度無菌治療部	1,300	補 委	日本学術振興会
マウス心筋虚血再灌流障害および心筋梗塞モデルにおけるケミカルシヤペロンの影響	岡島 正樹	集中治療部	900	補 委	文部科学省
サイトカイン吸着カラムを用いた血液浄化療法の可能性への追及	谷口 巧	集中治療部	1,300	補 委	日本学術振興会
肝細胞癌発生過程における細胞老化の関与とその意義に関する分子病理学的研究	池田 博子	病理部	1,300	補 委	文部科学省
癌幹細胞に着目した肝胆膵領域の横断的発癌研究	全 陽	病理部	1,400	補 委	文部科学省
ケモカインによる腎再生への検討	古市 賢吾	血液浄化療法部	1,350	補 委	日本学術振興会
肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究	酒井 明人	光学医療診療部	2,000	補 委	厚生労働省
薬の倫理学と薬剤師の倫理教育プログラムの構築および薬の歴史文化論的研究	古川 裕之	臨床試験管理センター	250	補 委	日本学術振興会
ダブルネガティブ調節性T細胞におけるCD95細胞死システムの意義	笠原 善仁	外来科学療法室	1,700	補 委	日本学術振興会
卵巣がん化学療法時にみられる筋肉痛の発症原因と対処法の検討	河原 昌美	薬剤部	360	補 委	日本学術振興会
NADPHオキシダーゼ阻害剤によるNASHの抗酸化療法の開発研究	宮本 謙一	薬剤部	1,900	補 委	日本学術振興会
膵癌患者におけるS-1血中濃度推移と副作用、治療効果に関する検討	山本 奈歩	薬剤部	420	補 委	日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付または委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に

行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発 表 者 氏 名	所 属 部 門
Am J Hematol (2008. 9)	Combined pure red cell aplasia and autoimmune hemolytic anemia in systemic lupus erythematosus with anti-erythropoietin autoantibodies	Hara A, et al.	腎臓内科
Am J Hematol. 83, 750-752, 2008	Combined pure red cell aplasia and autoimmune hemolytic anemia in systemic lupus erythematosus with anti-erythropoietin autoantibodies.	Hara A, et al.	腎臓内科 (検査部)
Heart 94, 1282-1287, 2008	Exercise-induced systolic dysfunction in patients with non-obstructive hypertrophic cardiomyopathy and mutations in the cardiac troponin genes.	Sakata K, et al.	循環器内科 (検査部)
J Hypertens. 26, 780-790, 2008	The renin-angiotensin system contributes to renal fibrosis through regulation of fibrocytes.	Sakai N, et al.	腎臓内科 (血液浄化療法部)
J Immunol. 181, 8670-8676, 2008	Chemokine receptor CCR1 regulates Inflammatory Cell Infiltration after Renal Ischemia-Reperfusion	Furuichi K, et al.	腎臓内科 (血液浄化療法部)
J Rheumatol. 36, 306-314, 2009	Dendritic cells contribute to autoimmune kidney injury in MRL-Faslpr mice.	Iwata Y, et al.	腎臓内科 (検査部)
Nephron Exp Nephrol. 109, c29-38, 2008	IFN-inducible Protein 10 (CXCL10) Regulates Tubular Cell Proliferation in Renal Ischemia-	Furuichi K, et al.	腎臓内科 (血液浄化療法部)
Thromb Res. 123, 390-395, 2008	Changes in molecular markers of homeostatic and fibrinolytic activation under various sampling conditions using vacuum tube samples from healthy volunteers.	Omote M, et al.	腎臓内科 (検査部)
Acta Neurochir (Suppl) 104: 321-324, 2008	Microcatheter intrathecal urokinase infusion into cisterna magna for prevention of cerebral vasospasm.	林 康彦	脳神経外科
Acta neuropathologica (平成21年1月)	A neuropathological study of autosomal-dominant chorea-acanthocytosis with a mutation of	石田千穂	神経内科
Acta neuropathologica (平成21年1月)	Reply: chorea-acanthocytosis with an autosomal-dominant trait.	石田千穂	神経内科
Acta Otolaryngol (2009)	Prognostic factors for squamous cell carcinoma of the temporal bone: extensive bone involvement or	伊藤真人	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
American Journal of Ophthalmology 2008/10/1	Non-descemet stripping automated endothelial keratoplasty for endothelial dysfunction secondary to argon laser iridotomy	小林顕	眼 科
American Journal of Ophthalmology 2008/6/1	In vivo laser confocal microscopy after descemet stripping with automated endothelial keratoplasty	小林顕	眼 科
Ann Nucl Med 2008; 22: 891-897	Prognostic table for predicting major cardiac events based on J-ACCESS investigation.	中嶋憲一、他	核医学診療科
Ann Nucl Med 2009; 23:173-81	Gated myocardial perfusion SPECT for preoperative risk stratification in patients with noncardiac vascular disease.	萱野大樹、 中嶋憲一、 絹谷清剛、他	核医学診療科
Annals of Surgery248 (5) : 807-814, 2008. 11	Prognostic factors for gallbladder cancer in japan	Kayahara M, et al.	肝胆膵・移植外科
Archives of neurology (平成21年2月)	Basiparallel anatomic scanning-magnetic resonance imaging in vertebral artery dissection	浜口 毅	神経内科
Arthritis Rheum (平成2008年11月)	CD19 regulates the development of bleomycin-induced pulmonary fibrosis in a mouse model	Komura K	皮膚科
Auris Nasus Larynx. (2008)	Post-operative pharyngocutaneous fistula after laryngectomy.	脇坂尚宏	耳鼻咽喉科 頭頸部外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Auris Nasus Larynx. (2009)	A solitary fibrous tumor arising in the parapharyngeal space, with MRI and FDG-PET findings.	脇坂尚宏	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
Biochem Biophys Res Commun (2009.3)	The hepatic circadian clock is preserved in a lipid-induced mouse model of non-alcoholic	Ando H	内分泌・代謝内科
Br J Radiol (2009)	Intraarterial chemotherapy for laryngeal cancer via non-bifurcating	室野重之	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
Brain research (平成21年1月)	CSF $\alpha$ -synuclein levels in dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease.	篠原もえ子	神経内科
Cancer Res (2008.12)	Common transcriptional signature of tumor-infiltrating mononuclear inflammatory cells and peripheral blood mononuclear cells in hepatocellular carcinoma patients	Sakai Y	消化器内科
Cancer Res (2008.5)	Nutlin-3a activates p53 to both down-regulate inhibitor of growth 2 and up-regulate mir-34a, mir-34b, and mir-34c expression, and induce	Kumamoto K(Yamashita T)	消化器内科
Cancer Res 68, 10267-10279, 2008	Common transcriptional signature of tumor-infiltrating mononuclear inflammatory cells and peripheral blood mononuclear cells in hepatocellular carcinoma patients.	Sakai Y, et al.	検査部
Cancer Sci (2008.10)	Optimal amount of monocyte chemoattractant protein-1 enhances antitumor effects of suicide gene therapy against hepatocellular carcinoma by M1 macrophage	Tsuchiyama T	消化器内科
Cardiovasc Res (2008.9)	G12/13 and Gq mediate S1P2-induced inhibition of Rac and migration in vascular smooth muscle in a manner dependent on Rho but not Rho kinase	Takashima S	循環器内科
Circ J 2008;72:611-617	Prognostic value of normal stress myocardial perfusion imaging in Japanese population: a study based on the J-ACCESS study.	松尾信郎、 中嶋憲一、他	核医学診療科
Circ J (2008.12)	Current status of anticoagulation therapy for elderly atrial fibrillation patients in Japan	Furusho H	循環器内科
Clin Cardiol 31, 270-274, 2008	Assessment of QT Intervals and Prevalence of Short QT Syndrome in Japan.	Funada A, et al.	検査部
Clin Cardiol (2008年6月)	Assessment of QT intervals and prevalence of short QT syndrome in Japan	舟田晃	循環器内科
Clin Exp Nephrol (2008.8)	Renal pathology of ANCA-related vasculitis: proposal for standardization of pathological diagnosis in Japan	Joh K (Wada T)	腎臓内科
Clin Exp Nephrol(2009.2)	Chemokine/chemokine receptor-mediated inflammation regulates pathologic changes from acute kidney injury to chronic kidney	Furuichi K	腎臓内科
Clin Pract Nephrol (2008.4)	Predicting outcome of IgA nephropathy by use of urinary epidermal growth factor:monocyte chemotactic peptide 1 ratio	Wada T	腎臓内科
Clin Sci (London) (2008年3月)	A novel beta-myosin heavy chain gene mutation, pMet531Arg, identified in isolated left ventricular non-compaction in humans, results in left ventricular hypertrophy that progresses to	金田朋也	循環器内科
Clin Sci(Lond) 114, 643-650, 2008	Expression and function of ephrin-B1 and its cognate receptor EphB2 in human atherosclerosis: from an aspect of chemotaxis.	Sakamoto A, et al	検査部 (循環器内科2)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical and Experimental Immunology 2008/6/1	Clonal relationship between infiltrating immunoglobulin G4 (IgG4)-positive plasma cells in lacrimal glands and circulating IgG4-positive lymphocytes in	高比良雅之	眼科
Clinical Infectious Diseases (47:e52-56, 2008)	Mortality secondary to fulminant hepatic failure in patients with prior resolution of hepatitis B virus infection in Japan.	酒井明人 他	光学医療診療部
Curr Pharm Biotechnol (2008.10)	Application of Serial Analysis of Gene Expression in cancer research	Yamashita T	消化器内科
Curr Pharm Biotechnol (2008.10)	SAGE application in the study of diabetes	Takamura T	内分泌・代謝内科
Current pharmaceutical design (平成20年10月)	Editorial: Anti-Amyloidogenic/Protein-Misfolding Therapies in Amyloidosis and Other	山田正仁	神経内科
Current pharmaceutical design (平成20年10月)	$\alpha$ -Synuclein Assembly as a Therapeutic Target of Parkinson's Disease and Related Disorders	小野賢二郎	神経内科
Current pharmaceutical design (平成20年10月)	Non-steroidal anti-inflammatory drugs as anti-amyloidogenic compounds	廣畑美枝	神経内科
Diabetes Care (2008.4)	BMI may be better than waist circumference for defining metabolic syndrome in Japanese	Sakurai M	内分泌・代謝内科
Diabetologia (2009.2)	Clock gene expression in peripheral leucocytes of patients with type 2 diabetes	Ando H	内分泌・代謝内科
Emerging infectious diseases (平成20年5月)	Acute encephalitis caused by intrafamilial transmission of enterovirus 71 in adult	浜口 毅	神経内科
Emerging infectious diseases (平成21年2月)	Medical Procedures and Risk for Sporadic Creutzfeldt-Jakob Disease, Japan, 1999-2008	浜口 毅	神経内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging 2008; 35:2038-48	Prediction of functional recovery after revascularization using quantitative gated myocardial perfusion SPECT: a multi-center	中嶋憲一、他	核医学診療科
Eur J Pharmacol (2008.7)	Olmesartan ameliorates a dietary rat model of non-alcoholic steatohepatitis through its	Kurita S	内分泌・代謝内科
European Journal of Radiology Extra 66: e1-e3, 2008	Uncommon co-localization of pituitary adenoma and parasellar cavernous	林 康彦	脳神経外科
Exp Dermatol (平成2008年3月)	Elevated serum levels of APRIL, but not BAFF, in patients with atopic dermatitis	Matsushita T	皮膚科
Front Biosci (2008.5)	The role of chemokines in glomerulonephritis	Wada T	腎臓内科
Front Biosci (2008.5)	Roles of chemokines in renal ischemia/reperfusion injury	Furuichi K	腎臓内科
Gastroenterology (2009.3)	EpCAM-Positive Hepatocellular Carcinoma Cells Are Tumor-Initiating Cells With	Yamashita T	消化器内科
General Medicine (2008.12)	Influence of physician specialty on treatment goals for diabetic patients: results of a survey given to the members of the Ishikawa medical association	Takamura T	内分泌・代謝内科
Hear Res (2008)	Anatomical plasticity in brainstem auditory nuclei following unilateral ablation of the inferior	伊藤真人	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
Hepatol Res. 39 (1) : 78-85, 2009.01	Effect of porto-systemic shunting on NOS expression after extended hepatectomy in rats.	Hayashi H, et al.	肝胆膵・移植外科
Hepatol (2008.12)	Expression of multidrug resistance-associated protein 3 and cytotoxic T cell responses in patients with hepatocellular carcinoma	Mizukoshi E	消化器内科
Hepatology (2008.7)	Tranilast, an antifibrogenic agent, ameliorates a dietary rat model of nonalcoholic steatohepatitis	Uno M	内分泌・代謝内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Pathol (2008年5月)	Expression of matrix metalloproteinase 7 is an unfavorable postoperative prognostic factor in cholangiocarcinoma of the	板津慶太、 全陽	病理部
Hum Pathol (2008年4月)	Expression of cell cycle-related molecules in biliary premalignant lesions: biliary intraepithelial neoplasia and biliary intraductal papillary neoplasm.	中西喜嗣、 全陽	病理部
Int Clin Oncol13(4) : 320-329, 2008.08	PTD classification: proposal for a new classification of gastric cancer location based on physiological lymphatic flow.	Kinami S, et al.	胃腸外科
Intern Med (2008.10)	Transformation of p53-positive papillary thyroid carcinoma to anaplastic carcinoma of the liver following postoperative radioactive iodine-131 therapy	Takeshita Y	内分泌・代謝内科
Intern Med (2008.6)	Thyroid Crisis following Interstitial Nephritis	Kahara T	内分泌・代謝内科
Intern Med (2008.7)	Intra-thyroid blood flow in Plummer's disease	Kurita S	内分泌・代謝内科
Internal medicine (平成20年12月)	A linear lesion along the brachial plexus on FDG-PET in	島 啓介	神経内科
Investigative Ophthalmology and Visual Science	Association of toll-like receptor 4 gene polymorphisms with normal tension glaucoma	東出朋巳	眼科
J Cell Physiol (平成2008年5月)	Neutralizing monoclonal antibody to human connective tissue growth factor ameliorates transforming growth factor- $\beta$ -induced mouse	Ikawa Y,	皮膚科
J Anesth	Dose- and time-related effects of dexmedetomidine on mortality and inflammatory responses to endotoxin-	Takumi Taniguchi,	集中治療部
J Gastrointest Cancer38 : 78-82, 2008.11	Cyclooxygenase-2(COX-2) in carcinogenesis and selective COX-2 inhibitors for chemoprevention in gastrointestinal cancers	Fujimura T, et. al	胃腸外科
J Hepatobiliary Pancreat Surg 16 : 401, 2009.	Nonclosure techniques and ductal decompression: a winning combination against the development of pancreatic fistula after distal pancreatectomy. (In response to the	Kitagawa H, et al	肝胆膵・移植外科
J Hepatol (2008.8)	Identification of novel candidate tumour marker genes for intrahepatic cholangiocarcinoma	Nishino R	消化器内科
J Hepatol(2009.1)	Activation of lipogenic pathway correlates with cell proliferation and poor prognosis in hepatocellular carcinoma	Yamashita T	消化器内科
J Hypertens. 26, 780-790, 2008	The renin-angiotensin system contributes to renal fibrosis through regulation of fibrocytes.	Sakai N, et al.	腎臓内科 (血液浄化療法部)
J Infect Dis (2008.7)	Hepatitis C virus (HCV)-specific immune responses of long-term injection drug users frequently	Mizukoshi E	消化器内科
J Invest Dermatol (平成2008年7月)	The loss of MCP-1 attenuates cutaneous ischemic-reperfusion injury in a mouse model of pressure	Saito Y	皮膚科
J Leukoc Biol (2008.10)	Tumor cell apoptosis induces tumor-specific immunity in a CC chemokine receptor 1- and 5-dependent manner in mice	Iida N	消化器内科
J Neuroimmunol. (平成21年3月)	Autoantibody to dihydropyridine receptor in myasthenia gravis	丸田高広	神経内科
J Pediatr Gastroenterol Nutr (2008.5)	Lead-pipe colon revisited in chronic graft-versus-host disease	Saikawa Y(Kagaya T)	消化器内科
J Rheumatol (2009.2)	Dendritic cells contribute to autoimmune kidney injury in MRL-Faslpr mice	Iwata Y	腎臓内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Rheumatol (平成2008年7月)	Elevated serum insulin-like growth factor (IGF-1) and IGF binding protein-3 levels in patients with systemic sclerosis: possible role in development of fibrosis	Hamaguchi Y	皮膚科
Journal of Hepato-biliary Pancreat Surgery 15 (4) : 377-383, 2008.08	Nonclosure technique with saline-coupled bipolar electrocautery in management of the cut surface after distal pancreatectomy	Kitagawa H, et al.	肝胆膵・移植外科
Journal of the Neurological Sciences (平成20年7月)	Epidemiology of familial amyloid polyneuropathy in Japan: Identification of a novel endemic	本崎裕子	神経内科
Journal of the neurological sciences (平成21年2月)	A clinical phenotype of distal hereditary motor neuronopathy type II with a novel HSPB1 mutation	池田芳久	神経内科
Metabolism (2008. 8)	Increased oxidative stress precedes the onset of high-fat diet-induced insulin resistance and obesity	Matsuzawa-Nagata N (Takamura T)	内分泌・代謝内科
Mod Pathol (2008年7月)	Extrahepatic bile duct carcinoma with extensive intraepithelial spread: a clinicopathological study	中西喜嗣、全陽	病理部
Morbidity and Mortality Weekly Report. (平成20年10月)	Update: Creutzfeldt-Jakob Disease Associated with Cadaveric Dura Mater Grafts - Japan, 1978-2008	山田正仁	神経内科
Nephron Clin Pract(2008. 4)	Biocompatibility and Permeability of Dialyzer Membranes Do Not Affect Anemia, Erythropoietin Dosage or Mortality in Japanese Patients on Chronic Non-Reuse Hemodialysis: A Prospective Cohort Study from the T-DOPPS II Study	Yokoyama H	腎臓内科
Nephron Exp Nephrol. 109, c29-38, 2008	IFN-inducible Protein 10 (CXCL10) Regulates Tubular Cell Proliferation in Renal Ischemia-	Furuichi K, et al.	腎臓内科 (血液浄化療法部)
Neuroepidemiology (平成21年3月)	Prevalence of Spinocerebellar Degenerations in the Hokuriku District in Japan	浜口 歩	神経内科
Neurol Med Chir (Tokyo) 48: 216-219, 2008	Unusual angiographic changes in an internal carotid artery pseudoaneurysm	林 康彦	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo) 48:208-210, 2008	Endovascular treatment for traumatic ear bleeding associated with acute	Kouichi Misaki	脳神経外科
Neuropathology (平成20年8月)	Peripheral and multiple cranial neuropathies in a 74- year-old	浜口 歩	神経内科
Nucl Med Biol 2008;35:29-34	A change of in vivo characteristics depending on specific activity of radioiodinated (+)-2-[4-(4-iodophenyl (piperidino)cyclohexanol [(+)-pIV]	Akhter Nasima, 絹谷清剛、他	核医学診療科
Obesity (2008. 12)	Obesity Upregulates Genes Involved in Oxidative Phosphorylation in Livers of Diabetic Patients	Takamura T	内分泌・代謝内科
Oncology Reports19(5):1305-1310,	Dual anti-cancer effects of weekly intraperitoneal docetaxel in treatment of advanced gastric cancer patients with peritoneal carcinomatosis: A feasibility and	Fushida S, et al.	胃腸外科
Oncology Reports20(6) : 1489-1495, 2008. 12	Quantitative detection of TIMP-3 promoter hypermethylation and its prognostic significance in esophageal squamous cell carcinoma	Ninomiya I, et al.	胃腸外科
Pancreas 23 (4) : 358-365, 2008. 11	Nonclosure technique with saline-coupled bipolar electrocautery in management of the cut surface after distal pancreatectomy	Kitagawa H, et al	肝胆膵・移植外科
Protein J (2008. 12)	Comparative Analysis of Proteome and Transcriptome in Human Hepatocellular Carcinoma using 2D-	Minagawa H(Yamashita T)	消化器内科
RESUSCITATION	The attitudes of Japanese high school students toward cardiopulmonary	Takumi Taniguchi,	集中治療部
RESUSCITATION	Attitudes toward automated external defibrillator use in Japan	Takumi Taniguchi,	集中治療部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Resuscitation (2008.7)	The attitudes of Japanese high school students toward cardiopulmonary resuscitation	Omi W	循環器内科
Retina 2008/5/1	A new self-sealing cannula system for 20-gauge vitrectomy: outcomes of 247 consecutive cases	西村彰	眼科
Stem Cells (2008.12)	Identification of stem cells during prepubertal spermatogenesis via monitoring of nucleostemin promoter activity	Ohmura M (Shugo H)	消化器内科
Thromb Res (2008.4)	Changes in molecular markers of hemostatic and fibrinolytic activation under various sampling conditions using vacuum tube samples from healthy volunteers	Omote M (Wada T)	腎臓内科
Transfusion and Apheresis Science	Comparison of a cytokine adsorbing column and an endotoxin absorbing column for the treatment of experimental endotoxemia	Takumi Taniguchi,	集中治療部
金沢大学十全医学会雑誌 第117巻 第3号 89-93, 手術63 (1) : 87-91, 2009.01	総説 遺伝子解析が膠芽腫亜分類に与えた Moving windowによる乳房温存手術	林 裕 野口昌邦, 井口雅史	脳神経外科 乳腺科
小児耳鼻咽喉科 (2008)	小児急性中耳炎ガイドラインについての	伊藤真人	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
消化器外科31(5) : 708-715, 2008.04	縮小手術 (機能温存根治手術)	藤村 隆, 他	胃腸外科
日本内分泌学会雑誌 (Suppl)	頭痛発症のラトケ囊胞における長期予後の	林 康彦	脳神経外科
日本味と匂学会誌 (2008)	タリウム-201経鼻投与における安全性.	広田京子	耳鼻咽喉科 頭頸部外科
脳神経外科速報 18: 66-75, 2008	神経膠腫の浸潤機構	中田光俊	脳神経外科
Journal of Affective Diso	High prevalence of bipolar disorder comorbidity in adolescents and young adults with high-functioning autism spectrum disorder.	Munesue, T.	子どものこころの診療科
児童青年精神医学とその近 接領域 (2008年)	児童・青年期における双極性障害に対する薬物療法	棟居 俊夫	子どものこころの診療科
Am J Psychiatry 165 : 479-489 (2008)	Conserved Regional Patterns of GABA-Related Transcript Expression in the Neocortex of Subjects with Schizophrenia	橋本隆紀	神経科精神科
Molecular Psychiatry 13 : 147-161 (2008)	Alterations in GABA-Related Transcriptome in the Dorsolateral Prefrontal Cortex of Subjects with Schizophrenia	橋本隆紀	神経科精神科
Brian Structure and Funcrion 213 : 149-157 (2008)	Automated quantification of dendritic spine density and spine head diameter in medium spiny neurons of the nucleus accumbens	戸田重誠	神経科精神科
Journal of neuroscience 29 : 2876-2884 (2009)	Altered dendritic spine plasricity in cocaine - withdrawal rats.	戸田重誠	神経科精神科
Abdominal Imaging 33: 425-427, 2008	Hemodynamics of small sclerosing hepatocellular carcinoma within fibrous capsule: evaluation with single-level dynamic CT during	Kobayashi S, Matsui O, Gabata T, et al.	放射線科
European Radiology 18: 1918-1924, 2008	Detection of hypervascular malignant foci in borderline lesions of hepatocellular carcinoma: comparison of dynamic multi-detector row CT, dynamic MR imaging and superparamagnetic iron	Shinmura R, Matsui O, Kadoya M, et al.	放射線科
J Gastroenterology Hepatology 23: 1466-1468, 2008	Optimal imaging of hepatic mass lesions	Matsui O, Gabata T, Kobayashi S	放射線科
CT and MR of the Whole Body (5 <sup>th</sup> Ed) 1501-1566, 2009	Liver: Focal hepatic mass lesions.	Matsui O, Kobayashi S, Gabata T, et al.	放射線科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Radiation Medicine 26: 179-187, 2008	Selective induction hyperthermia following transcatheter arterial embolization with a mixture of nano-sized magnetic particles (ferucarbotran) and embolic materials: feasibility study in	Takamatsu S, Matsui O, Gabata T, et al.	放射線科
Cancer Res 66:9479-9487, 2008.	Hepatocyte growth factor induces gefitinib resistance of lung adenocarcinoma cells with EGF receptor mutations.	矢野聖二	旧がん研 腫瘍内科
Cancer Sci 99:1603-1610, 2008	Lysophosphatidic acid stimulates the proliferation and motility of malignant pleural mesothelioma cells through lysophosphatidic acid receptors, LPA1 and LPA2.	山田忠明	旧がん研 腫瘍内科
Mol Cancer Ther 8:119-126, 2009	Intensification Therapy with Anti-parathyroid hormone-related protein antibody plus zoledronic acid for bone metastases of small cell lung cancer cells in SCID mice.	山田忠明	旧がん研 腫瘍内科
Cancer Immunol Immunother 58(6):967-76. 2008	HM1.24 (CD317) is a novel target against lung cancer for immunotherapy using anti-HM1.24	ワン ウェイ	旧がん研 腫瘍内科
Lung Cancer. 63:23-31, 2009.	HM1.24 (CD317) is a novel target against lung cancer for immunotherapy using anti-HM1.24 antibody Chimeric and humanized anti-HM1.24 antibodies mediate antibody-dependent cellular	ワン ウェイ	旧がん研 腫瘍内科
Surg Endosc, (21(8):1464-5, 2007.)	Closed three-port anatomic lobectomy with systematic nodal dissection for lung cancer.	Oda M	呼吸器外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg, (55(6):238-239, 2007)	Invited commentary: Results of surgical resection for tracheobronchial cancer involving	Oda M	呼吸器外科
Ultrasound Obstet Gynecol. Mar;31(3):342-5	Ultrasound-guided culdotomy for vaginal ovarian cystectomy using a renal balloon dilator catheter.	Tanaka M,	産科婦人科
J Minim Invasive Gynecol. May-Jun;15(3):350-4.	Use of laparoscopic support to avoid laparotomy in vaginal ovarian cystectomy.	Tanaka M,	産科婦人科
J Thorac Cardiovasc Surg. (2007Dec;134(6):1519-25.)	Successful low-energy cardioversion using a novel biodegradable gel pad: Feasibility of treating postoperative atrial fibrillation	Kenji Iino	心臓血管外科
J Endvasc Ther( 2007 ; 14 : 813-815)	Stent-Graft Deployment to trat a Perigraft Seroma Formed After Descending Thoracic Aortic Surgery	Hiroshi Ohtake	心臓血管外科
J Surg Res 140:165- 170, 2007	Dual-color imaging of angiogenesis and its inhibition in bone and soft tissue Sarcoma	Hayashi K, Yamauchi K, Yamamoto N, Tsuchiya H, Tomita k, Amoh Y, Hoffman RM, Bouvet M	整形外科
Cancer Res 67:8223- 8228, 2007	Real-time imaging of tumor-cell shedding and trafficking in lymphatic channels	Hayashi K, Jiang P, Yamauchi K, Yamamoto K, Tsuchiya K, Tomita K, Moossa AR, Bouvet M, Hoffman RM	整形外科
Arch Orthop Yrauma Surg :2007 [Epub ahead of print]	Deformity correction for nitamin D-resistant Hypophosphatemic rickets of adults	Matsubara H, Tsuchiya H, kabata T, Sakurakichi K, Watanabe K, Tomita K	整形外科



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Foot Ankle Int 28: 1290-1294, 2007	Correction of ankle ankylosis with deformity using the Taylor Spatial Frame:a report of three cases	Matsubara H, Tsuchiya H, Kawahara N, kobayashi T, Morinaga T, Tomita K	整形外科
J Orthop surg15 :380-383, 2007	Ilizarov external fixator for burst fracture of the lumbar spine:a case report	Matsubara H, Tsuchiya H, Kawahara N, kobayashi T, Morinaga T, Tomita K	整形外科
Int Orthop 32 :63-68, 2008	Functional outcome in patients with osteosarcoma around the knee joint treated by minimised surgery	Hayashi K, Tsuchiya H, Yamamoto N, Takeuchi A, tomita K	整形外科
spine 33:39-46, 2008	Circuspinal decompression with dekyphosis stabilization for thoracic myelopathy due to ossification of posterior longitudinal ligament	Kawahara N, Tomita K, Murakami H, Hato T, Demura S, Sekino Y, Nasu W, Fuimaki Y	整形外科
spine 33:1533-1541, 2008	Effects on Spinal Cord Blood Flow and Neurologic Function secondary to Interruption of Bilateral Segmental Arteries Which Supply the Artery of Adamkiewicz:An Experimental study Using a Dog	Kato S, kawahara N, Tomita k, Murakami H, Demura S, Fuimaki Y	整形外科
ORTHOPEDECS 31:651, 2008	Acute Aortic Dissection or Ruptured Aortic Aneurysm Associated With Back Pain and Paraplegia	Yoshioka K, Toribatake Y, Kawahara N, Tomita K	整形外科
J Rheumatol. 35:2383- 2390, 2008	Vascular endothelial growth factor in rabbits during development of corticosteroid-induced osteonecrosis:a controlled experiment	Kabata T, matsumoto T, yagishita S, Wakayama T, Iseki S, Tomita K	整形外科
J Surg Oncol. (2007, 96(7):630-2)	Pharyngojejunostomy with the creation of a funnel-shaped jejunal stump during reconstruction of the cervical esophagus using a free	Omura K	整形外科
Surg Endosc. (2007, 21(11):2112-4)	Robotic intragastric surgery: a new surgical approach for the gastric lesion	Hirano Y	整形外科
Surg Endosc. (2007, 21(7):1126-30)	Ringed silicon rubber attachment prevents laparoscopic surgeon's	Inaki N	内分泌・代謝内科
薬局別冊 (58(5):45-50, 2007)	Key Drugの使い方 ～代表的レジメンとその適応 FOLFOX.	大村 健二	内分泌・代謝内科
臨床外科 (62(12):1553-1558, 2007)	褥瘡の管理とNST	大村 健二	内分泌・代謝内科
Arthritis Rheumatism, 59(4), 561-567 2008	High titer of serum antiphospholipid antibody levels in adult Henoch-Schonlein purpura and cutaneous	Yamazaki M	血液内科
Diabetes Res Clin Pract 79:474-481, 2008	Reassessment of the cutoff values of waist circumference and visceral fat	八木邦公	内分泌代謝内科
Obesity (Silver Spring) 16: 2601-2609, 2008	Obesity Upregulates Genes Involved in Oxidative Phosphorylation in Livers of Diabetic Patients.	篁俊成	内分泌代謝内科
Eur J Pharmacol 588:316-324, 2008	Olmesartan ameliorates a dietary rat model of non-alcoholic	栗田 昭英	麻酔科蘇生科
Journal of Oral & Maxillofacial Surgery 2008年9月発行 66巻486-491頁	Skeletal stability after mandibular setback surgery: bicortical fixation using 2.0-mm locking plate system versus monocortical fixation plate system	上木耕一郎 山本悦秀	歯科口腔外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oral Surgery 2008年4月発行 1巻28-34頁	Immunohistochemical expression of E-cadherin and $\beta$ -catenin correlate with invasion, metastasis and prognosis of oral squamous cell	北原寛子 山本悦秀	歯科口腔外科
OS OM OP OR ENDOD 2008年6月発行 105巻445-451頁	Association of oral yeast carriage with specific host factors and altered mouth sensation	清水千賀 山本悦秀	歯科口腔外科

ページ計 2

合計 159

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 富田 勝郎
管理担当者氏名	・消化器内科長 金子 周一 ・内分泌・代謝内科長 武田 仁勇
	・リウマチ・膠原病内科長 川野 充弘 ・呼吸器内科長 藤村 政樹
	・循環器内科長 山岸 正和 ・腎臓内科長 和田 隆志 ・血液内科長 中尾 眞二
	・総合診療内科長 小泉 順二 ・神経内科長 山田 正仁
	・神経科精神科長 三邊 義雄 ・小児科長 谷内江 昭宏
	・子どものこころの診療科長 棟居 俊夫 ・放射線科長 松井 修
	・放射線治療科長 高仲 強 ・皮膚科長 竹原 和彦
	・心臓血管外科長 渡邊 剛 ・呼吸器外科長 小田 誠 ・胃腸外科長 藤村 隆
	・肝胆膵・移植外科長 太田 哲生 ・内分泌・総合外科長 石川 紀彦
	・乳腺科副科長 井口 雅史 ・整形外科長 土屋 弘行
	・脊椎・脊髄外科長 川原 範夫 ・泌尿器科長 並木 幹夫
	・眼科長 杉山 和久 ・耳鼻咽喉科・頭頸部外科長 吉崎 智一
	・産科婦人科長 井上 正樹 ・麻酔科蘇生科長 山本 健
	・脳神経外科長 濱田 潤一郎 ・核医学診療科長 絹谷 清剛
	・歯科口腔外科長 山本 悦秀
・薬剤部長 宮本 謙一	
・総務課長 神村 茂 ・経営管理課長 山崎 勝治 ・医事課長 長谷川 篤史	

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		医事課	診療録は1患者1ファイル
病院日誌、各科診療日誌、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 看護部	
処方せん		薬剤部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	発生順
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	開催順
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	開催順
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	開催順
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	発生順
		院内感染のための指針の策定状況	医事課	
		院内感染のための委員会の開催状況	医事課	開催順
		従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	開催順
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	発生順
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	開催順

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	各外来, 病棟	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	発生順
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医事課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課	開催順
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課 経営管理課	発生順
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 経営管理課	発生順

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 富田 勝郎
閲覧担当者氏名	総務課長 神村 茂
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	69.09%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,029人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,245人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		562人
	D: 初診の患者の数		20,467人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 所属職員：専任2名 兼任10名</li><li>・ 活動の主な内容<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策の企画及び立案に関する事</li><li>(2) 医療事故防止マニュアルの作成等に関する事</li><li>(3) 安全管理のための教育及び研修の企画及び運営に関する事</li><li>(4) アクシデント及びインシデント報告の調査及び分析に関する事</li><li>(5) リスクマネジャーとの連絡調整に関する事</li><li>(6) 医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認及び指導に関する事</li><li>(7) 患者及び家族等への説明等、医療事故発生時の対応状況の確認及び指導に関する事</li><li>(8) 医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関する事</li><li>(9) 金沢大学附属病院医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成、保存 その他当該委員会の事務に関する事</li><li>(10) その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関する事</li></ol></li></ul> <p>※医療事故発生時の対応並びに医療訴訟及び診療情報提供に関する事項を除く。</p>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 職員ひとりひとりが安全管理に関する認識を高め、医療事故防止に積極的に取り組むと同時に、病院全体としても組織的に医療に係る安全管理及び医療事故防止に取り組む、医療事故等の未然の防止を目指す。</li><li>(2) 医療安全管理委員会、医療安全管理部、医療安全管理者、リスクマネジャー等による医療安全管理体制を整備し、病院全体として医療事故防止及び医療全体の質の向上に努める。</li><li>(3) 医療安全管理のための研修等を企画し、病院全職員が年2回以上受講できるようにする。</li><li>(4) 「医療事故防止マニュアル」の作成、医療事故等の報告事例の検討など、医療安全の確保を目的とした改善方策を実施する。</li><li>(5) 医療事故等が発生した場合においては「医療事故防止マニュアル」に沿って対応し、医療上の最善の処置を講ずる。また、患者及び家族等に対して事実を速やかにわかりやすく説明する。</li><li>(6) 患者との信頼関係を築くため、また、開かれた医療を推進するため、情報の開示及び提供に積極的に対応していく。</li><li>(7) 患者相談室を設置し、患者及び家族からの医療安全に関する要望、苦情及び不満を真摯に受け止め、その解決に尽力する。</li></ol></li></ul>	

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容</li> <li>(1) 医療に係る安全管理対策に関すること</li> <li>(2) 医療事故防止対策に関すること</li> <li>(3) 安全管理のための教育及び研修に関すること</li> <li>(4) 発生した医療事故の原因の分析及び改善策等に関すること</li> <li>(5) その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること</li> </ul> <p>※院内感染対策委員会が所掌する事項を除く</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7回 ほか
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容</li> <li>【平成20年度】</li> <li>医療安全研修(講演)</li> <li>5/19 『安全な静脈注射の実施に向けて』</li> <li>6/16 『医療機器の安全確保について～第5次医療法改正により求められる医療安全の確保～』</li> <li>7/28 『CT検査とMRI検査におけるリスクマネジメント』</li> <li>8/7 『ヤコブ病の二次感染の実態と予防』</li> <li>10/1 『医療安全活動について』『安全な医療に至るための体制・道具と気持ち』</li> <li>2/23 『病院における災害時の対応「災害体験とその教訓」～新潟県中越地震の経験を通して～』</li> <li>ほか『RCA(根本原因分析)研修』など</li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備( 有 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容</li> <li>○事故報告等の分析結果を現場へフィードバック</li> <li>○医療従事者の医療事故防止に関する教育</li> <li>○事故防止のための基礎知識の提供</li> <li>○事故報告等から必要なマニュアルを作成</li> <li>○インシデントサマリに再発防止策を提案</li> <li>○事故防止マニュアルの見直し</li> <li>○GRM等による医療現場のラウンド</li> <li>○院内の医療安全ニュースや啓発ポスターの配布</li> <li>○院外の事故情報の提供による注意喚起</li> </ul>	



院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策に対する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会に関する基本的事項</li> <li>3. 従業者に対する院内感染対策のための研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
<p>・ 活動の主な内容：下記の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内感染予防の方策及び監視に関すること</li> <li>(2) 院内感染対策のガイドラインの策定及びその実施に関すること</li> <li>(3) 院内感染についての教育活動に関すること</li> <li>(4) 院内感染の調査に関すること</li> <li>(5) その他院内感染に関して委員会が必要と認める事項</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回 ほか
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【平成20年度】</p> <p>医療安全研修・感染対策研修(講演)</p> <p>『安全な静脈注射の実施に向けて』</p> <p>『ヤコブ病の二次感染の実態と予防』</p> <p>『経管栄養器具と感染対策』</p> <p>その他 感染対策指導</p> <p>「手指衛生トレーニング」「食中毒・感染予防対策」「院内清掃と感染予防対策」</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>院内感染対策チーム(HICT)の会議において、院内感染に関する問題を検討し、その改善策等を院内感染対策委員会に諮る。また、その改善策等を感染対策ニュースとして院内に周知する。</p>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> <li>【平成20年度】</li> <li>医療安全研修(講演)『安全な静脈注射の実施に向けて』</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書 ( 有 )</li> <li>・ 業務の主な内容 : <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医薬品の採用</li> <li>2) 医薬品情報の収集・管理・提供</li> <li>3) 医薬品の購入管理</li> <li>4) 薬剤部から外来・入院患者への医薬品の処方・交付</li> <li>5) 病棟における医薬品の管理</li> <li>6) 中央診療施設, 外来部門における医薬品の管理</li> <li>7) 入院患者への医薬品使用等の管理・指導</li> </ol> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 : <p>医療安全管理部のカンファレンスにおいて、インシデント事例の報告や医薬品に関する問題提起などを受けて検討し、その改善策等を院内に周知する。</p> </li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容 :</li> </ul> <p>【平成20年度】</p> <p>医療安全研修(講演)</p> <p>『医療機器の安全確保について～第5次医療法改正により求められる医療安全の確保～』</p> <p>『CT検査とMRI検査におけるリスクマネジメント』</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 ( 有 )</li> </ul> <p>厚生省通知に挙がっている7項目の医療機器について策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保守点検の主な内容</li> </ul> <p>ME機器管理センター, 放射線部が中心となって保守点検計画を実施。</p> <p>製造販売業者の添書・指導に基づく保守点検, または外部業者への委託により, 動作確認や部品確認を行う。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有 )</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容 :</li> </ul> <p>医療安全管理部のカンファレンスにおいて, インシデント事例の報告や医薬品に関する問題提起などを受けて検討し, その改善策等を院内に周知する。</p>	